

・日本火山学会（中村・石峯）

公開講座火山防災シンポジウム「浅間山と火山防災」「火山と考古学」を浅間縄文ミュージアムとの共催で長野県御代田町のエコールみよたにて2012年10月13日に開催予定。火山防災委員会と防災科研とで、火山防災関係の出版物（日本の火山ハザードマップ集第2版、和英版）を編集作業中で、年度内に出版の予定。

医学的な観点からの原発事故関連の調査について、国立保健医療科学院の刊行物：
<http://www.niph.go.jp/journal/data/60-4/j60-4.html>がある。

火山噴火の健康影響については、以下のHPで情報発信中
http://www.geocities.jp/ychojp/ivhhn/index_japanese.html

・地球電磁気・地球惑星圏学会（小田）

Earth, Planets and Space (EPS誌)の「東北地方太平洋沖地震」特集号第1弾“First Results of the 2011 Off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake”に続き、特集号第2弾“The 2011 Tohoku Earthquake”を今年12月の出版予定。

http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/inp/inpress_tohoku2011_2.html

EPS誌では2011年の新燃岳噴火に関する特集号を企画中。
“Shinmoe-dake Eruption in 2011—An Example of Less-Frequent Magmatic Activity—”
<http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/pdf/announce/64050415.pdf>

・日本地質学会

災害関連

●地質災害調査委員会

学会 HP に以下の情報を公開。

- ・新潟県南魚沼市のトンネル爆発に関連する地質情報を HP に公開
- ・「平成 23 年台風 12 号による紀伊半島における地盤災害」について、合同調査団を派遣し、調査結果を HP に公開。
- ・東日本大震災に関して、各会員の取り組み等を HP に公開。

●環境地質部会

- ・2011 年 6 月 04 日に明海大学浦安キャンパスでシンポジウム「人工改変地と東日本大震災」を開催。
- ・2011 年 12 月 18 日に場所：茨城県潮来市立中央公民館（潮来市日の出）でシンポジウム「利根川中・下流域の液状化・流動化・地波現象」を開催。

・日本鉱物科学会（榊原）

学会としての活動：特になし

会員の活動：福島県原発事故による放射性セシウム汚染の除染に関する研究（2件）

・日本地下水学会・日本水文科学会（林）

日本地下水学会の主催、日本水文科学会・地盤工学会の共催、水文・水資源学会の後援により2012年5月26日に東大柏キャンパスにてシンポジウム「震災時の非常用水源としての地下水利用の在り方」を開催。

- ・ 日本気象学会（中村 尚・石原）

2011年5月：気象学会春季大会にて、同学会、並びに学術会議IAMAS小委員会共同で「東日本大震災に伴う原発環境汚染に関する勉強会」を開催。

2011JPGU大会 ユニオンセッションU22「極端気象」を共催。

2011年9月：「科学」（岩波書店）に「福島第一原発事故」に関する解説特集を掲載。

2011年11月：気象学会秋季大会にて「放射性物質輸送モデルに関する現状と課題」と題するスペシャルセッションを開催。

2012年1月：放射性物質拡散WGによる「原子力発電所の事故発生時の対策のあり方に関する提言」の取り纏め、学会声明として発表。

2012年4月：学術会議「放射能対策の新たな一歩を踏み出すために一事実の科学的探索に基づく行動を一」の提言取り纏めに協力。

2012年5月：気象学会春季大会にて「地球温暖化問題における科学者の社会的役割」に関する公開気象講演会を開催。「放射性物質等の移流拡散問題 -モニタリング, 予測, 防災情報-」に関する大会シンポジウム（会員向け）、「5月6日の茨城・栃木の竜巻に関する調査報告会」（会員向け）も併せて開催。

2012JPGU大会 一般セッションA-AS24「極端気象」を共催。

以下の一般向け解説書の刊行準備中

「福島第一原子力発電所事故：その地球科学的側面」（朝倉書店）

「地球温暖化 ―そのメカニズムと不確実性」（仮題）（朝倉書店）
- ・ 東北地理学会（村山）

2011年5月（春）、10月（秋）の大会では、ともに東日本大震災関連の研究発表が数多くなされ、秋季大会ではシンポジウムも開催。

2012年5月（春）の大会でも大震災関連の発表が20本を超えた。

現在、震災に関する英語書籍を編集中。
- ・ 日本堆積学会（後藤）

2012年5月に第1回の津波堆積物ワークショップを開催、10月に第2回津波堆積物ワークショップを開催予定。

2012年10月 堆積学研究から地震・津波堆積物の特集号を出版。
- ・ 日本地理学会（須貝）

2012年3月31日で東日本大震災対応本部を解散、4月から通常の災害対応委員会で継続対応。

2012年10月6日秋季大会（神戸大）でシンポジウム開催（地理学会・学術会議主催、地惑連合後援）「いま改めて二つの大震災から学ぶ―阪神淡路大震災・東日本大震災と地理学・変動地形学―」（講演者：島崎邦彦・中田高・鈴木康弘・岡田篤正・渡辺満久）

災害対応委員会 HP にて地理学会員の災害対応活動報告を公開「2012年7月九州北部豪雨災害について」

- ・日本雪氷学会（西村）

2012年9月24日福山市立大学での雪氷研究大会（雪氷学会と雪工学会の共同開催）において、特別セッション「平成24年豪雪から雪国の今日的課題に鋭く切り込む」を開催。震災の影に隠れてしまいがちであるが、平成22年度さらに23年度と日本は平成18年豪雪に匹敵する記録的な豪雪に見舞われた。消防庁の統計によれば、23年度は全国で130名以上が雪の事故の犠牲となり、2000名近くが重軽傷を負っている。住家被害も全壊13棟、半壊・一部損壊が500棟を数え、非住家の被害に関しても、昨今の空き家の急増を反映して公共施設43棟、その他1053棟と報告されている。「豪雪そのものが問題ではなく、地域にもともと存在していた高齢化、過疎化等の問題を豪雪が鮮明に浮かび上がらせた」という認識も提示される今、雪国の今日的課題について踏み込んだ議論が行われた。

- ・日本第四紀学会（田力）

2012年大会 開催（8月19日～23日）

公開シンポジウム「氷床コア等から得られる第四紀環境情報」を開催。一般セッションにおいて、過去の気候変動、津波堆積物、活断層の活動履歴など、環境変動や災害に関する多数の研究発表が行われた。

埼玉県立川の博物館主催の特別展「今だって氷河時代～埼玉からさぐる気候変動～」(7月14日～9月2日)を後援。

古地震・ネオテクトニクス研究委員会で野外集会を開催（8月13日）

静岡県の遠州灘海岸付近において、過去の地震の痕跡である津波堆積物や完新世段丘を観察し、防災などに活用する方法について議論。

- ・日本応用地質学会（大塚）

2012年5月 日本学術会議ほか東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会主催の連続シンポジウム「巨大災害から生命と国土を護る—二十四学会からの発信—」の第四回シンポジウム「首都直下・東海・東南海・南海等の巨大地震に今どう備えるか」において、千木良会長が基調講演。

2012年6月に平成24年度日本応用地質学会総会・シンポジウム「最近の地形の計測技術と応用地質学への適用」をテーマに、東京大学柏キャンパスにて平成24年度シンポジウムを開催。

2012年7月にて「地盤から見た東日本大震災」シンポジウムを日本応用地質学会東日本大震災特別委員会の主催、一般社団法人 全国地質調査業協会連合会との共催により、飯田橋レイナービルにて開催。

- ・日本国際地図学会（宇根）

定期大会（8月23日～24日 専修大学）において、シンポジウム「減災のための地図のあり方を考える」を開催し、ハザードマップの課題、災害履歴の地図化などについて議論を行った。